

自主企画課題研究
国際協力への授業研究からのアプローチ 8J5-25

カンボジアにみる 授業の課題と授業研究



愛知教育大学 鈴木 将史

70年代ポルポト政権下の虐殺の影響

学校教育の空白化

専門家の消滅

低レベル教員の増加

文献の消失

実験機材等の払底



特に中等理数科教育のダメージ大

カンボジアの授業の特徴

【教師側】

- 教師中心の一方通行
- 自分が学習したときのノートを黒板に写す
- 教師の話に誤りが多い
- 生徒とのやり取りが少ない

【生徒側】

- 先生の話をも復唱
- 黒板をそのまま写す
- 実験や演習はほとんどない
- 暗記中心の学習活動

カンボジアの高校教員養成

王立プノンペン大学 (4年間)



教員養成校 (FOP) (1年間)



高校教員としてカンボジア全土へ赴任

重要

カンボジア理数科教育改善プロジェクト (STEP SAM)

教員養成校のレベル向上



優秀な高校教員が輩出



カンボジア各地で新しい授業を展開



全国的に中等教育のレベルが向上

想定した活動

- 適当な参考書を読んだり,互いに議論したりして,教授法を改良する
- 教員養成カリキュラムを見直し,新しい教授法を取り入れるなど,充実を図る
- 実際にプリサービス・インサービスの教員訓練を行い,カンボジア全土の数学教育を向上させる

明らかにになった現実

- ❁ FOP(教員養成校) 教官達の著しい能力不足
- ❁ 中学校の問題にも苦勞する学力で大学卒の学生を教えている
- ❁ 「理解する」と「知っている」の区別がつかない
- ❁ 本に書いてあること, 先生が話したことしか安心して「正しい」と判断できない一方, 本に書いてあることや先生が言うことなら, 誤りでも正しいと思う

悪影響の循環

■ 虐殺による人材の枯渇



■ 教員の数学能力の欠如



■ とにかく項目を羅列する教育



■ 暗記するだけの数学学習



克服の取り組み

- FOP教官向けの連続講義・演習
- 日本での研修〔3ヶ月程度〕

論理的思考・表現の徹底的な訓練

- 教官グループによるワークショップ

自立的な改善努力の促進

現在までの成果

- ✿ 「なぜ？」を問う習慣がついた
- ✿ 難しい問題にも取り組む姿勢が出てきた
- ✿ 自己学習が可能になった
- ✿ 教員同士の結びつきが生まれた
- ✿ 学習内容を共有できるようになった
- ✿ 授業内容を公開し、改善できるようになった
- ✿ 地方の現職教員を指導できるようになった

今後の課題

- 後期中等教育における数学全体を体系的に理解し、カリキュラムを作る人材の育成
- さらに高度な数学の探求
- 教授能力のさらなる改善
- 教員の能力向上を阻む外的要因の克服